

五丁目新聞



SASA
NO
SASA
YAKI

五丁目ラジオー
アドバイザー
近松佐左衛門

発行日

2018年(平成30年)

11月20日

リブross社
株式会社
さいたま市を中心にITを
駆使して企業内でのお困り
ごとを皆さまと一緒に解決
するお手伝いをします。
<http://livross.jp>

『アナログ・レコードで聴く
ブルース名盤50選』
から始まる旅

この本『アナログ・レコードで聴くブルース名盤 50選』(スペースシャワー ネットワーク、二〇一七)の中で紹介されている50枚のオリジナル盤レコードは視覚的にも濃厚なものばかりだ。1枚目のマディ・ウオーターズと2枚目のライトニン・ホプキンスでいきなりノックアウトされてしまった人は、6枚目のサニー・ボーイウィリアムソンで更なるショックを受けるだろう。しかし、23枚目にはブルースの深淵そのものが待ち受けている。ちなみに2枚目のライトニン・ホプキンス『モジョ・ハンド』米オリジナル盤を新宿ディスクユニオンで7月に見たが、28万円という値付けに盤をめぐる手が一瞬震えてしまったことを告白しておこう。

ブルースは声であり語りである。

ライトニン・ホプキンスが口を開くだけで、その場の空気はミック坊やキース坊やたちが怯えるほど悪魔的なものに変わる。39枚目のミシシッピ・ジョン・ハートがうたい出せば、ほのぼのとした穏やかな春の温かさにまわりがつつまれていくようだ。

ブルースは多様である。

43枚目のロバート・ビート・ウィリアムスはブルースの形式に全くとらわれていない。まさにブルース界の山頭火である。44枚目のJ.B.ルノアー『アラバマ・ブルース』は、1996年にヨーロッパでしか発売されなかったこのレコードのタイトル曲だが、人種差別への静かで深い悲しみや怒りが半世紀のちの現在でも心を打つ。本書で紹介されているアナログ・レコードを少しずつ手に入れてレコード・ジャケットを眺めながら聴いていく中で、自分自身が思い込んでいたよりもブルースはもっと深く広いものであることがわかってきた。

オリジナル盤にはとても手が出せないが、日本盤や再発盤を少しずつ手に入れながらこれからもブルースへの旅を続けて行くことと思う。



五丁目ラジオー
パーソナリティー
あらいごう

このあいだ、10月に韓
国の全州というと
ころに、ツアー
でいきました。なに
やらたくさん人の国の
コミュニティヤンが集ま
ってきており、スーパ



ムロミ、フナース、ポー
ラード、イニビネン、ア
フゲニスタン、トルコ、
なよどのひとたちのえ
んそうをきいたッ、
ごはんをたべたり
しよした。ホテル
の近じまをあるけば
むかしからのいちば
がずーとあります。
インスルバエのカフェを
あります。いちばは、
道ばたに、やさしがさか
ながゴロゴロしています。
おばちまんが売って
います。みんなパニチ
パーマです。セブンイ
レブンのギン。パルチン風
(のりま)は開けると切れて
たややすり。



顔役劇場

五丁目ラジオ 頭橋
顧問・教員
二松亭牛志楼

はじめまして。「二松亭牛志楼(にしようてい・ぎゆうしろう)」と申します。普段はさいたま市内にある私立高校で教頭をしています。

まずは何かからお話ししましょうか。やつぱり、なぜ、僕が今、原稿を書いているのかということですね。これを読んだという方で「参加型のコラムなわけ？」と頭をもたげてしまうことも全くない訳ではありませんから。

「五丁目ラジオ」のアシスタントである上妻さんとは仕事上でお付き合いをさせていただいております。

私立学校で重要な仕事の一つに生徒募集なるものがあります。つまり「営業」です。生徒がいないところで授業をしても、大きな独り言になってしまいます。

大人でも勘違いいされる方がたまにいらつしやるのですが、私立校の教員は会社員、公立校は公務員です。ですから、自校の「営業」が不可欠で、そこには広告も必要です。

そうです、上妻さんには学校の広告をお願いしているわけです。僕が「営業」の部署に配属になっ

たのは五年前。あの頃は仕事でちらほら会話を交わす程度でした。ある時、(今となっては思い出させませんが)、Deep Purple か、Led Zepplin あたりの話で盛り上がり、互いにハードロック好きであることが判明し意気投合となったわけです。

年齢差?のためか、双方のハードロックへの入り口だったり、高校生の中に夢中になって聞いていた(私はIRON MAIDEN。初めて小遣いで行ったライブも中野サンプラザでのメイデンでした)。バンドは微妙に異なっていました。Mr. Big に関しては「新譜聞きました?」と会話に花が咲く一方、ドラマー PAT TORPEY の逝去の報に共に愕然としました。

「ハードロック好きに悪い人はいない」と訳の分からない(笑)論を述べる上妻さんに疑問を持ち

ながら、プライベートでもお仕事をお願いするようになりました。「ズブズブな関係?」そこは大丈夫!と胸を張りたいです。

プライベートのお仕事というのは、落語に関する事です。大学時代、落研に所属していた僕は仕事の合間に現在でも落語をやっています。月に二、三回、大学時代の落研の仲間と寄席を開いたり、社会人落語家(これについてはまた今度。今度はあるのか?)の会に招かれたり、自分で会を催したりしています。

この自分で催す会というのが「みずもと寄席。僕の地元である葛飾区水元(水元公園はご存知でしょうか)で二〇一七年の四月より年に三、四回開催しています。「みずもと寄席」のフライヤーのデザインを第一回から上妻さんにお願いしています。

第6回 みずもと寄席

2018年も残り僅かとなりました。「笑う門には福来る」、2019年が明けた。新しい1年になるよう、今年最後のみずもと寄席「でいひ笑ってください!!」皆様のご来場を心よりお待ちしております。

2018年 12/16(日) 開演 14:00
会場: 南水元集い交流館

先着 60名様 (全席自由席) 予約不要・入場無料
問い合わせ: 六零 (牛志楼) 080-6089-3929

▲次回は2018年12月16日(日)、次々回は4月を予定

ロックが縁となり、落語のフライヤー、そしてコラムまで書かせていただいています。:「ハードロック好きに悪い人はいない」今となってはこの論に激しく、ヘッドバンキングをしています。

広告を募集しています。

五丁目新聞・五丁目ラジオで、あなたのお店や会社、各種出版・発行物、イベント・講演会等をPRしませんか。五丁目新聞は年4回発行を予定しています。発行部数は毎号300~500部程度です。お申し込み・お問い合わせはメールアドレス: info@5chome.tokyoまで。その他詳細は営業担当者(新井・上妻)まで。

全1段 天地 44mm×左右 132mm

天地 44mm×左右 66mm 半1段

■記事下広告のサイズ・掲載料

	サイズ (天地×左右)	掲載料金 (税抜き)
全1段	44×132	3,000円
半1段	44×66	1,500円
全2段	94×132	6,000円
半2段	94×66	3,000円
全4段	194×132	12,000円



猫沢 ロック ロール 研究所

五丁目ラジオ
アシスタント
あがつまひろし

今回は日本のバンド「LITTLE CREATURES」について書いていた訳ですが、今回から紙面が拡大しているので、前回の「つづく」を撤回し放送内で取り上げたので、David Lee Rothの3枚目のスタジオアルバム「A Little Ain't Enough」について、補足したいと思います。

放送内では Van Halen の「Hot For Teacher」も本作の「Hot Showtime」が似ている。さらに B'z の「ギリギリchop」と「It's Showtime」が似ていると言及しています。ですが個人的には「Hot For Teacher」と「ギリギリchop」は（そこまで）似てないと思えます。

確かに「Hot For Teacher」も「It's Showtime」もリズムが（速い）シャッフル。ですが、前者はアレックスらしいドラムからスタートするのに対して、後者はギターソロからスタートします。このイントロのギターソロの入り方が、いかにも、「ギリギリchop」風なのです。

ちなみに、「ギリギリchop」は B'z の10枚目のアルバム「Brotherhood」からの先行シングル「スペース・キャニオン」の寺沢

功一さん、ドラムは黒瀬蛙一さんです。ですが、『Brotherhood』に収録されている「ギリギリchop (Version 51)」では、ベースがビリー・シーンとドラムがバット・トリーピーという「金にもものを言わせたよな」（さらに）華やかな布陣となっています。

本作のギターはジェイソン・ベッカーとステイブ・ハンター、ベースはグレッグ・ピソネット（ドラム）の兄弟マッド・ピソネットが担当しています。前任者のステイブ・ヴァイやビリー・シーンと比べてしまつと、どうにもならないのですが、それでも後任の彼らが力量不足というわけではなく、B!誌酒井さんがいうように、「ステイブ・ヴァイやビリー・シーンが弾いていない」というだけで、過小評価されているアルバムだと思います。

1stはテッド・テンブルマン、2ndはデイヴィッド・リー・ロスとステイヴ・ヴァイの共同、3rdの本作は『メタリカ』前夜のポップ・ロックがプロデューサーと聞けば「悪いわけがない」と今なら言えることなのですが、この段階では抜けた人たちが気になってしまつたのは致し方ないかと思えます。

また、B!誌の大野さんがいうように「もつとブギーは埃っぽくしてほしい」とか言いやすいですが、何よりエンターテインメント性

を重視している楽曲が並んでいるので「そんな埃っぽいブギーをダイアモンド・デイブにみんなが求めているだろうか?」とそこは別に気にしなくても良いんじゃないかと思えます。ZZTOPだつて超本格的なブギーではなくて、ポップなブギーなので、これで注文がつくのであれば ZZTOP のエリミネーターなどはいくらでも難癖つけられそうな気がします。

そういうわけなので、あらいさんが言うように、地下でやらない「踊れる」パーティにもつてこい、エンターテインメント性を重視したアルバムであるということ踏まえると、B!誌増田さんがいうような「感情移入出来る類の音楽」ではなく、パーティを盛り上げられる「Fun」の音楽であることが何より重要ではないかなあ、と思います。あがつまの今年度暫定ナンバーワンのアルバムなのです。



①A Lil' Ain't Enough②Shoot it③Lady Luck④ Hammerhead Shark⑤Tell the Truth⑥Baby's on Fire⑦40 Below⑧Sensible Shoes⑨Last Call⑩The Dogtown Shuffle⑪It's Showtime!⑫Drop in the Bucket

駅から徒歩3分。整体師歴18年、朝霞台で12年！

らくらく整体院

【らくらく整体】5,400円(45分) 【頭スッキリ】2,150円(20分)
【O脚・X脚改善】6,500円(45分) 【股関節バランス】3,250円(30分)
【輪郭補正】6,500円(45分) 【ピンポイント】1,100円(10分)

【予約制】TEL:048-474-2877

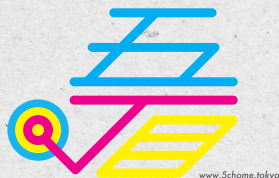
〒351-0034 埼玉県朝霞市西原 1-7-13 ベルハイム 102

【URL】 <https://raku-raku-seitai.com/nwp/>

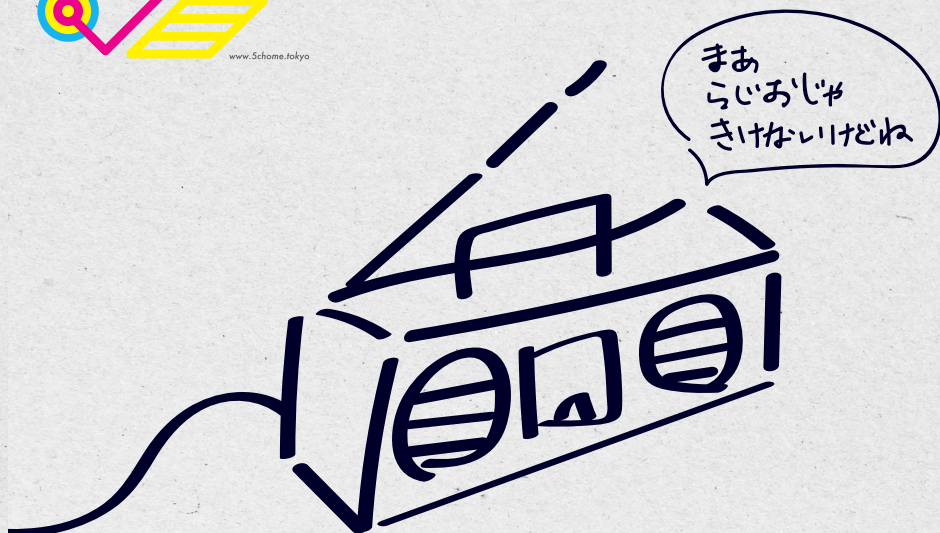
ウェブサイト



※料金は税込



www.5chome.tokyo



なにもしたくないときに。

「キウイとパパイヤ、マンゴーズ」「滞空時間 TAIKUH JIKANG」「ハッシー&theアラビアンナイターズ」「むゆうじゅ」で活動する音楽家、バイオリン・シタール奏者のGO ARAI(あらい・ごう)をメインパーソナリティに、デザイナー(のような仕事をしている)上妻(あがつま)がアシスタントを務める、ラジオ好きによる(ラジオごっこ的な)プログラムです。無駄話のほか、1990年4月からのBURRN!を読みながら、ハードロックやヘヴィメタルのCDを自腹で購入し、鑑賞したりしています。お悩み相談にも随時イリュージョン(©立川談志)中!

なにもしたいことのないときに、お部屋のあっちのほうでながれるとか用の、不思議なポッドキャストです。

あらいごう・あがつまひろしの

五丁目ラジオ

<http://www.5chome.tokyo>



公式ウェブサイト